

患者由来「肉腫」モデルの構築；新しい治療法や基礎研究のための研究基盤の紹介  
吉松有紀<sup>1</sup>、野口玲<sup>1</sup>、申育實<sup>1</sup>、土屋琉人<sup>1</sup>、小野拓也<sup>1</sup>、清茜<sup>1</sup>、桑田優<sup>1</sup>、佐々木里菜<sup>1</sup>、  
高橋真美<sup>2</sup>、吉田朗彦<sup>3</sup>、川井章<sup>4</sup>、近藤格<sup>1</sup>

国立がん研究センター 研究所 1) 希少がん研究分野、2) 動物実験施設、中央病院  
3) 病理診断科、4) 骨軟部腫瘍・リハビリテーション科

肉腫は骨や軟部組織など間葉系組織に由来する悪性腫瘍である。症例の少ない希少がんであり、新しい治療法の開発や基礎研究が遅れている。症例が少ないため臨床検体を用いた研究が難しく、ゼノグラフト株や細胞株などの患者由来がんモデルが得られないことが、肉腫研究を難しくしている。我々は、肉腫の研究基盤を構築することを目的として、患者由来「肉腫」モデルの構築を行っている。さまざまな組織型の肉腫を対象にゼノグラフトや細胞株の樹立を試み、ゼノグラフト 40 株、細胞株 53 株の樹立に成功した。現在までに、延べにして約 200 株を国内外の研究者に提供した。また、民間企業との共同研究で、樹立したゼノグラフトを世界中の研究者が使用できる仕組みを構築しようとしている。肉腫の新しい治療法や基礎研究の発展を目指して、患者「肉腫」モデルの樹立を継続し、効率のよいモデルの作製法や、樹立したモデルを用いた多施設共同研究を行っていききたい。